

## 第 40 回榎野川河口域・干潟自然再生協議会会議概要

### 1 日 時

令和 8 年 5 月 2 日(土) 10:30~12:00

### 2 場 所

旧山口県漁業協同組合山口支店 2F (山口市秋穂二島 437)

### 3 主 催

榎野川河口域・干潟自然再生協議会

### 4 出席者

委員 29 名 (その他学生等)

### 5 内 容

#### (1) 第 12 期委員について (資料 1 : 事務局)

- ・第 11 期委員は令和 8 年 3 月 31 日をもって任期を満了し、設置要綱第 5 条に基づき、新たに第 12 期委員を公募した。(任期：令和 8 年 4 月 1 日～令和 10 年 3 月 31 日)
- ・個人委員 馬場様が第 11 期委員の任期満了に伴い退会された。
- ・第 12 期委員より、新規に 5 名入会された。

新規入会者は以下のとおり

#### ○個人委員

- ・矢部 徹 委員
- ・山下 奉海 委員
- ・山本 裕子 委員

#### ○団体委員

- ・ニチモウ株式会社 (代表：貝田 昂大様)
- ・株式会社 ECOJ (代表：山本 朋也様)

#### (2) 役員の選出について (資料 2 : 事務局)

##### ア 会長、会長代理、監査の選出

- ・委員より事務局案を求められたため、事務局から前期に引き続き、会長に朝位孝二委員を、会長代理に山本浩一委員を、監査に平田委員と山村委員を提案した。
- ・事務局案については、協議会委員により承認された。

##### イ 顧問の選出

- ・事務局から前期に引き続き、顧問に浮田委員と関根委員を推薦した。
- ・事務局の推薦については、協議会委員により承認された。

##### ウ 会長あいさつ

- ・榎野川河口域・干潟自然再生協議会は設立から今年度で 23 年目、協議会会議は今回で 40 回目となった。
- ・本日の会議では、新たにカブトガニ幼生生息調査の見直しや自然再生協議会のアーカイブ作成について説明がある。
- ・午後の干潟再生活動については、250 名程の参加があり、大阪市立自然史博物館との共同活動も行う予定と、コロナ禍以前の活発な状況に戻りつつあり、皆様の御協力に感謝する。

#### (3) 2025 年度の活動について

##### ア 2025 年度活動報告 (資料 3-1 : 事務局)

- ・2025 年度の活動概要をまとめた No. 22 ニュースレターを作成し、HP に掲載した。
- ・新たな取組として、ファンクラブを対象とした干潟再生活動を行った。

- ・カブトガニ幼生生息調査（長浜・南潟）は熱中症防止の観点から、調査時間を短縮して行ったため、カブトガニの発見個体数は減っているが、一定の個体数は確認できた。
- ・南潟のアサリ定期モニタリングでは、アサリの自然発生による個体数増加を確認しており、干潟再生の兆しを確認できた。
- ・その他活動についても継続して行っている。

#### イ 2025年度ふしの干潟いきもの募金について（資料3-2-1,2：事務局）

- ・収入としては、各所設置の募金箱収入のほか、企業からの寄附、寄附付き商品による売り上げがあった。
- ・支出としては、「榎野川河口干潟再生活動」、「カブトガニ幼生生息調査・観察会」、「アマモの再生活動と観察会の開催」及び事務費があった。
- ・募金支援対象の実績報告書については、資料3-2-2のとおりである。

#### 【意見交換・質疑】

（委員）ブルーカーボン WG の支出が、予算額を上回ったということで、手出しになっているが、他の活動と調整するなどして、手出しの無い工夫をする必要がある。また、監査結果を会議資料に添付しておくが良い。

→ 精算について、今年度は手出しの無いよう、調整しつつ協議会で報告していく。監査結果については、議事録送付の際に併せて添付する。

### （4）2026年度の活動について

#### ア 2026年度年間計画について（資料4-1：事務局）

- ・5月2日の午後に行われる干潟再生イベントで設置する一部の網袋をファンクラブ対象の干潟再生活動として10月24日に開封する予定である。
- ・5月16日に第3回山口湾アマモ観察会・花枝採取会を岩屋で開催予定である。
- ・カブトガニ幼生生息調査は、例年より時期を遅らせ9月に開催予定である。また、一般参加は南潟の活動で行い、長浜の活動は関係者のみで実施する。
- ・第41回協議会会議は、2026年2月に実施予定である。

#### イ 第8回ふしの干潟いきもの募金支援対象活動について（資料4-2-1,2：事務局等）

- ・昨年度に引き続き、榎野川河口干潟再生活動、カブトガニ幼生生息調査・観察会、アマモの再生活動及びアマモ見学会の開催を支援することに加え、今年度より、協議会のアーカイブ及びHPの作成等に支援する。
- ・榎野川河口干潟再生活動では、被覆網を削減する取組を進めており、被覆網購入費用を抑えることができているため、予算額を昨年度より5万円減らし、10万円にしている。
- ・ブルーカーボン WG の活動については、山本グループリーダーより説明。  
→ アマモ場の拡大を図るための花枝採取及び一般向けのアマモ観察会を実施する。観察会については、本日配布したチラシのとおり、5月16日（土）に行う予定であり、本日の干潟再生活動の参加者にもチラシを配布し、参加者を募る。また、ワーキンググループによる勉強会を年内に2回行う。
- ・持続可能な里海づくり WG の活動については、船崎グループリーダーより説明。  
→ 当協議会は2004年に設立し、様々な活動を継続して続けている。協議会委員から、活動のアーカイブや協議会委員が書き込めるHPがあれば、さらに地域の皆様に知ってもらえるという意見が多くあったため、今回ふしの干潟いきもの募金の予算をつけていただいた。皆様の御協力をいただきたい。

#### ウ 2026年度カブトガニ幼生生息調査について（資料4-3：カブトガニWG）

- ・活動内容見直しの概要にあたり、カブトガニWGリーダー原田委員より説明。

→ カブトガニ幼生生息調査は 2006 年から行っているが、近年では、9 月中頃まで猛暑が続くという過酷な状況になってきているため、調査方法を見直す事とした。今までのデータを継続して活かしつつ、開催時期、一般募集の開催場所、調査方法を変更している。

また、幼生生息調査の他に、カブトガニの産卵調査もできればと思っている。

・活動内容見直しの詳細にあたり、環境保健センター元永委員より説明。

→ カブトガニ幼生生息調査は生物多様性アクション大賞で入賞するなど、全国でもかなり珍しい活動であり、現在でも継続して行っている。

例年、当調査は 8 月から 9 月上旬にかけて行ってきたが、近年では猛暑が続いており、特に干潟未経験者にとっては過酷な調査となっていたことから、下記のとおり見直しを行った。

- ・開催時期を 8 月上旬～9 月上旬から 9 月中旬～10 月上旬に変更
- ・環境省による「熱中症アラート」が発令した場合は中止
- ・南潟での調査を一般参加者募集とし、長浜での調査を関係者のみで開催
- ・南潟での調査では、ビギナーとアドバンスに分け、干潟未経験者でも調査しやすいように変更
- ・長浜での調査では、ライン数を減らし、ゴール地点を変更

## エ 自然再生協議会のアーカイブ及び HP の作成等について（資料 4-4:持続可能な里海づくり WG）

・山口市の広報状況について、山口市環境政策課の高尾委員から説明。

→ 山口市では環境に関する分野をまとめた『やまぐちエコポータル』を活用し、榎野川河口域・干潟自然再生協議会の活動等について、情報発信を行っている。

その他、榎野川河口域・干潟自然再生協議会の Facebook や山口市環境政策課の Instagram で参加者の募集や活動の実施報告を行っている。

また、水辺の教室等の環境学習の場でも、協議会の情報発信をしている。

・今年度の取組について、環境保健センター元永委員から説明

→ 現在では、山口県と山口市の HP が主な広報手段となっている。

5 つある WG の中で、持続可能な里海づくり WG の取組として、協議会の HP づくりを実施していく。

当協議会は、産学官民が様々な視点で活動を行っており、過去の活動をアーカイブとして残すことで、次の世代に今までの活動の価値を繋ぐ事ができる。また、活動目標の設定方針を集約することで、住民とのなりわいの場となるプラットフォームを作成していく。

### 【意見交換・質疑】

（委員）今後の活動目標の設定方針を集約するには、負担が大きすぎる。活動目標の設定は当協議会会議で行うべきではないか。

→ 持続可能な里海づくり WG では、活動目標の案をピックアップし、当協議会会議で提案できればと考えている。

（委員）協議会設置当初は、水産資源に関する取組が主だったのに対し、近年では、住民への啓発や生物多様性、ネイチャーポジティブに向けた取り組みに時代と共に遷移している。今後当協議会の活動目標について提案していく場ともなるので、皆さんで協力して取り組んでいきたい。

## （5）本日の干潟再生活動について（作業説明）（資料 5：環境保健センター元永委員）

- ・一般参加者 250 名と大阪市自然史博物館 54 名の約 300 名が干潟再生活動に参加する。暑くなっているため、協議会委員には全体の体調管理をお願いしたい。
- ・干潟再生の指標生物としてアサリの保護活動を続けており、被覆網によるアサリの

保護を主に行っていたが、被覆網管理の負担低減の観点から、選択的なアサリの保護を行うため、網袋による保護活動を開始している。過去3年では502枚の網袋を設置し、約11万個の稚貝を放流している。

- ・網袋の開封・放流は設置から1年後でもアサリは順調に成長することから、春の干潟再生活動では、網袋の設置→開封・放流→潮干狩りを1年サイクルで行っていく。
- ・寄附付き商品である、赤色の網袋は、10月にふしの干潟ファンクラブを対象に開封・放流イベントを行う。
- ・本日の干潟再生活動では、アサリ稚貝の保護・育成のため、干潟の表砂を網袋に入れ、設置してから、A, B, Cの3グループに分かれて活動を行う。
- ・Aグループでは、一昨年網袋から放流したアサリを採捕する。拡張が3cm以上のアサリが多ければ、参加者にお持ち帰りいただく。
- ・Bグループでは、昨年設置した網袋を開封し、アサリの選別を行う。
- ・Cグループでは、生き物観察会を行う。今回親子連れの参加者が多いため、約150名の方々が参加する。
- ・活動終了後、記念写真を撮った後、アサリ稚貝の放流を行う。